

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆銀行の融資格付け柔軟に、赤字でも成長力評価を 金融庁が新指針

・金融庁は金融機関が返済可能性に応じて融資先を格付けする「債務者区分」について月内にも新たな運用指針を示す。企業の財務や決算情報に加え、技術力や知的財産、顧客販路などを総合的に判断するよう求める。赤字決算が続く企業も将来の事業成長が見込めれば「正常先」として分類してもらい、資金を行き届きやすくする。

◆「転職で賃金増」過去最高の36.9% 1～3月期、民間調べ

・インディードリクルートパートナーズは2025年1～3月期に同社のサービスを通じて転職した後に賃金が増えた人の割合が36.9%だったと発表した。2四半期ぶりに上昇した。これまで過去最高だった24年7～9月期の36.1%を超えた。同社が前職に比べて賃金が1割以上増えた人を「賃金が増えた」と定義して集計した。

◆2025年度の業績見通し、増収増益を見込む企業は24.6%

・帝国データバンクは、2025年度の業績見通しに関するアンケートを全国2万6674社を対象に実施。25年度に増収増益を見込む企業の割合は24.6%となり、2年連続で減少。減収減益は21.2%で、微増ながら2年連続で増加。業種別に見ると、建設は減益減収を見込む割合が25.0%で5番目の高さ。卸売業や製造業で減収減益を見通す割合が高い。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆建設費、高騰止まらず 着工面積減少も受注額は24年度5%増

・建設大手などが加盟する日本建設業連合会が発表した2024年度の国内建設受注額は前年度比5%増の18兆6333億円。資材価格などのコスト高が続き過去20年で最高。一方で新築着工面積は減少が止まらない。受発注者が工事費で折り合えずに計画が頓挫、加盟92社の受注額を集計。民間からの受注額は10%増の13兆8977億円。

◆2023年度の温暖化ガス排出量4%減 環境省、2年連続で過去最低

・環境省は2023年度の温暖化ガス排出量が前年度比4%減の10億7100万トンだったと発表した。遡れる1990年度以来の最低値を2年連続で更新。再生可能エネルギーや原子力で発電した電気の割合が増えたことが寄与。浅尾環境相が閣議後の記者会見で公表。温暖化ガス排出量は2013年度比でみると23.3%減少した。

◆5月の電気代、東電など8社が値下げ LNGと石炭の価格下落

・大手電力10社は6月請求分(5月使用分)の家庭向け電気代を発表。発電用燃料となる液化天然ガス(LNG)、石炭の価格下落を受け、関西、九州を除く8電力で値下げとなる。平均的な使用量で5月請求分よりも44～94円安くなる。政府は暖房需要の増える2～4月請求分に補助を出していたが、5月と6月請求分はいずれも補助は付いていない。

《 注目商品 》

■パナソニック、価格を2割抑えた全館空調システム

・熱交換気ユニットとルームエアコンを組み合わせた普及価格帯の全館空調熱交換気システム「with air® DELIGHT(ウイズエアァー デイライト)」を10月1日に発売。熱交換気ユニット・ルームエアコン・HEPAフィルターによるシステム構成と機能をシンプルに。



■シャープ、プラズマクラスター衣類乾燥除湿機

・1日あたり定格18.5Lの高い除湿能力と最短74分の速乾性能を備えながら、運転音を45dB未満の低騒音で実現したプラズマクラスター衣類乾燥除湿機<CV-T190>を発売。排水の負担を軽減する新構造の「感動タンク」を搭載、使いやすさにも配慮。



■大建工業、吸音性を備えた防音室向け断熱材

・初の断熱材製品として、吸音性能を備えた壁・天井用の「断熱吸音ウールR」と床用の「断熱吸音ウールB」を6月23日に発売。音響事業で使う「吸音ウール」の吸音性能に断熱性能を担保。素材はポリエステル繊維で、壁・天井用2.7㎡・K/W、床用2.4㎡・K/Wの熱抵抗値を確保。

